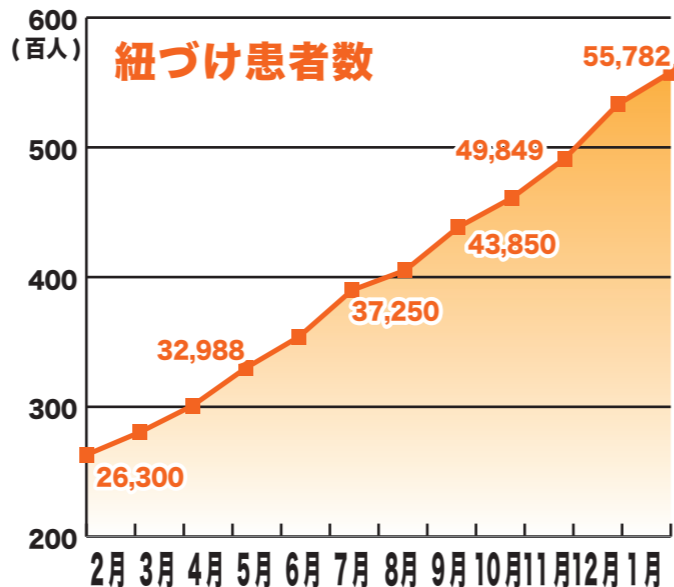
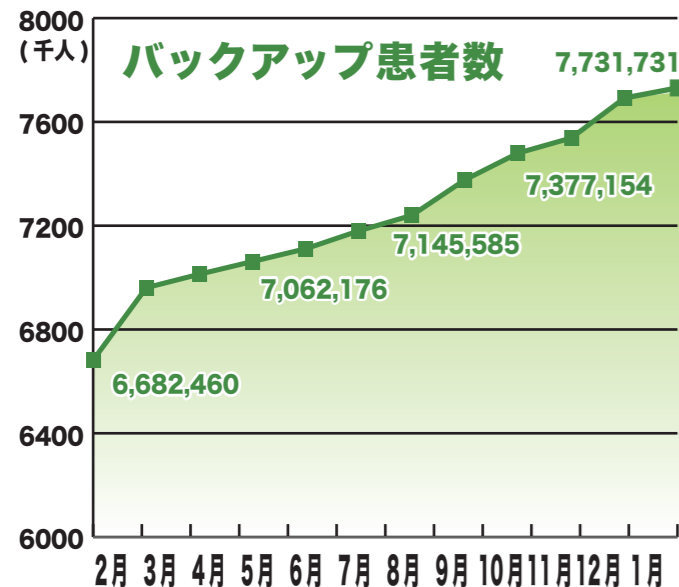


データ推移 両データ共に、順調な増加傾向にあります。バックアップ患者数は前月比 +99,287 人、紐付け患者数は前月比 +4,383 人となりました。



MMWIN 事務局からのお知らせ！

定時社員総会のご案内

平成 30 年 2 月 23 日 (金) 18 時 30 分より、「平成 29 年度 定時社員総会」を開催致します。システム利用料金項目の新設と見直し等の審議が行われる予定です。お時間がありましたら是非ご参加ください。

日時 平成 30 年 2 月 23 日 (金)

18:30~20:00

(受付: 18:00~)

場所 宮城県医師会館 2 階 大手町ホール



MMWIN

発行：一般社団法人 みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会

〒980-8633 仙台市青葉区大手町 1-5 宮城県医師会館 6 階 URL: <http://mmwin.or.jp>
 サポートセンター TEL: 022-399-6880 サポートセンター E-mail: support@mmwin.or.jp
 事務局 TEL: 022-395-6312 FAX: 022-395-6313 E-mail: office@mmwin.or.jp

当協議会からのメールを受信できない場合がございますので、「@mmwin.or.jp」からのメールを受信できるように設定してください。
 『MMWIN』、『みんなのみやぎネット』は、一般社団法人みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会の登録商標です。
 ※本誌の収録内容の無断転載、複写、引用、改変等を禁じます。



エムエムウィン
MMWIN® 通信
 みんなのみやぎネット® NEWS

2018
 Feb.
 vol.50 **02**

発行：みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会

仙台市 原町ささき内科

宮城野区原町 院長 佐々木 陽彦 先生

今回は、今年度 MMWIN を導入された原町ささき内科院長の佐々木陽彦先生に、今後の MMWIN の活用についてお話を伺いました。

1. 地域のかかりつけを志し 3 年前に開業されました。現在どのような患者さんを診ていらっしゃいますか？



地域の内科医として内科に関わる幅広い分野で患者さんを診ています。当院は仙台医療センターや仙台オープン病院の近くにあり、患者さんにとって、そういった大きな病院にかかる前の入り口に待ち受ける存在、そして、大きな病院にかかった後のゴールに待ち受ける存在でありたいと思い、日々の診療にあたっています。専門が呼吸器ということもあり、一度近くの病院で診察を受けたものの咳や痰の症状がなかなか改善せず、当院を受診される方も多いです。

また、当院周辺には高齢の方が多くお住まいですので、遠くの病院への通院を負担に感じいらっしゃる患者さんにも受診していただいています。現在当院を受診されている患者さんに対して非常時にも診療を続けられるよう、MMWIN で情報のバックアップを行うこと、共有することの重要性を感じています。

2. 先生のご専門や土地柄から、他の病院や診療所との連携が非常に重要と思われそうですが、そのような中で今後 MMWIN をどのように使っていきたいと考えていらっしゃいますか？

一つは、大きな手術や患者さんを他の施設に紹介する際に、紹介先で当院での治療の経過を見て診療に役立てていただきたいということです。また、逆に他の施設から患者さんを紹介された際に、MMWIN で患者さんのこれまでの経過を見ていきたいです。加えて開業後は一人で診察をしていることもあり、内視鏡検査や超音波検査等を他の施設の先生に依頼することが増えています。そういった当院で行っていない検査の内容も共有して、患者さんがよりよい治療を受けるために MMWIN を活用していきたいと思っています。



院長 佐々木 陽彦 先生

また、当院は宮城野区にありますが、患者さんにとって東北本線をまたぐことが負担になっているということをよく聞きます。宮城野区にお住まいで、長年に渡り青葉区内の大きな病院に通院してきたけれども、年齢を重ねるごとに通院が難しくなり、出来れば近くで診てもらいたいというのです。そのような患者さんのためにも、他区の病院と地域連携パスを運用して連携し、またその連携の中で MMWIN を活用することにより、これまで通りの医療を提供できると良いと思っています。

3. ご高齢の患者さんが多くとお聞きいたしました。今後の介護施設との連携についてはどのように考えていらっしゃいますか？

患者さんをよく把握されているのは介護者だと思っています。限られた診察時間の中で、医師が患者さんの状況を全て把握することは難しい。そういった点で情報の連携は非常に重要で、今後も連携は増えていくと考えています。私自身も介護者の視点を理解したいと思ったり、逆に介護者の方にも医師の視点を知ってほしいと思います。例えば、医師としては、患者さんの食事の様子や転倒・ふらつきの有無、注意機能、服薬状況などの情報は非常に有益ですし、介護者の方にも治療状況を可能な範囲で把握してほしいですね。将来的には、そのように連携で介護施設とつながることができると良いと考えています。

栗原市立の2病院参加決定！

栗原市立2病院が参加致しました！！栗原市立若柳病院と栗原市立栗駒病院の公立2病院がMMWINに情報提供施設として参加となりました。各病院より情報提供をして頂く事により、栗原中央病院でのブース展開も含め今後栗原地域の医療連携は活発化していくことは間違いありません。



Hub and spoke の理念に基づき

地域包括システムの推進に MMWIN を最大限に活用していただくよう働きかけて参ります。

登米ブースが開設しました！！



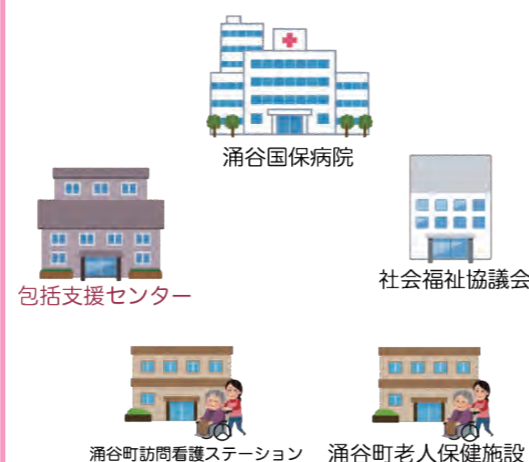
登米市民病院で患者登録の申請を受付けるブースがスタートしました。12月5日（火）より週2回でブースが始まりました。登米市民病院の松本院長先生より是非ブースを開いて欲しいとご要望を頂戴し、医療局の方々を始めとした関係各位様のご協力により無事に開設の運びとなりました。開設は週2回ですが、順調に患者加入数は増加しております。ブース開設により登米市内の地域包括支援にますます拍車がかかるものと期待します。

涌谷町地域包括支援センターの参加が決定しました

昨年11月24日、涌谷町町民医療福祉センター内の涌谷町地域包括支援センターから参加の申込をいただきました。これにより涌谷町町民医療福祉センター内の「国保病院」を中心として「老人保健施設」、「訪問介護ステーション」、「社会福祉協議会ゆうらいふ」と涌谷町町民医療福祉センター内の各施設すべてが参加することになります。MMWIN導入により、町民医療福祉センターを核とした地域医療介護連携が進むことで、涌谷町が進める地域包括ケアシステム構築の具体化に一層寄与することになります。

今後も切れ目のない医療と介護サービスの提供をめざして、涌谷町地域包括支援センターの皆様と協力しながら加入申し込み数を増やしMMWINを活用していただくよう働きかけて参ります。

涌谷町町民医療福祉センター



以前よりお知らせしておりますが、MMWIN通信を郵送の他に、各施設のMMWIN使用者に直接メールで送付しております。また、ユーザーズミーティング開催のお知らせ等も送付致しますので、貴施設のMMWIN端末使用者の方のメールアドレスを何件でも構いませんので、可能な範囲でお知らせください。

『koho@mmwin.or.jp』まで、施設名と可能であれば担当者様名をご記入の上、ご登録をお願い致します。右記のQRコードより、メールを送付いただくことも可能です。既にご連絡くださった施設様のアドレスは登録しておりますので、直接配信を開始しております。ご登録、誠にありがとうございました。合わせて、ホームページにて、MMWIN通信や、宮城県医師会報掲載ページのバックナンバーを公開しております。是非、ご覧ください。



角田市 北町薬局

角田市角田 管理薬剤師 前田祐輔 先生

今回は角田市の北町薬局の管理薬剤師前田祐輔先生にMMWINの活用状況、今後への期待についてお話を伺いさせていただきました。

現在の活用状況

MMWINに参加した当初、大学病院でMMWINに加入した患者さんが1、2名いらっしゃる程度で活用の機会は少ない状況でしたが、最近、みやぎ県南中核病院や金上病院で加入された患者さんからカードの提示が数回、中にはカードの利用法をもう一度教えて欲しいという方もあり、MMWINについて説明も行いました。

この様な事から昨年末より受付にMMWINカードを提示するスタンドを設置しましたが、この1ヶ月程でカードを提示、もしくは既にMMWINに加入しているとの患者さんが10名前後もあり、スタンドの設置は効果的でした。



MMWINの可能性



最近では外来化学療法を受けている患者さんも多くなり、おくすり手帳に検査値の記載や治療内容のレジュメが貼り付けられているケースも増えています。この様におくすり手帳でも処方以外の情報も参照できる一方、個人情報への配慮が求められています。加えて、おくすり手帳だけでは足りない部分もあるので、セキュリティが担保されたMMWINは情報共有の手段のひとつとして有効ではないかと思えます。

今後、在宅に移行する患者さんも増えてますが、退院時共同指導に際して、調剤業務など止むを得ず参加出来ない状況があった場合でもMMWINで入院時の情報が共有できれば有効になると思います。

編集後記

今回は前田先生からMMWIN活用の中で得られた貴重なお話を伺いさせていただきました。今後も施設間での利活用の推進に加え、患者さんのご理解が得られるよう努めて参ります。

(井戸・三浦)